

平成31年度(令和元年度) 能美市立寺井中学校 学校評価計画

重点目標	具体的な取り組み	主担当	前年度の状況	目標が達成された状態 (Bの状態)	評価の方法	項目評価	評価判断の方法				判定基準	備考 (評価時期等)	
							a	b	c	d			
1 組織的な学校運営	1-① 職員全体が参画意識をもち、共通理解・共通実践に取り組む。	運営委員会	アンケートの結果は、肯定的な回答が97.4%であった。目的・目標を意識し、変えるべきところは変えるという見直しが進んでいる。今後もさらなる検討を重ねていくことが望ましい。シンプルで具体的な提案を各自が考えて行うようになってきており、継続して進めている。	前例踏襲ではなく、教育的効果の視点を持ちつつ、各分掌からの提案がシンプルかつ具体的に継続的に実践に生かされている。	職員アンケート『目的・目標を意識し、前例踏襲にならないよう見直しを進めている。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない 職員アンケート『各分掌からの提案がシンプルかつ具体的に、継続的に共通実践されている。』					a+b の割合(2つの項目の平均)が全体の A 90%以上の場合 B 85%以上85%未満の場合 C 80%以上85%未満の場合 D 80%未満の場合	7月・12月		
	1-② 多忙化改善の取組を推進し、生徒と向き合う時間の質を高める。	運営委員会	アンケートの結果は、肯定的な回答が65.7%であった。中間総括の60%よりも改善されてきたものの、3分の1は、余裕のない日々を過ごしている。ただ、その中で、多くは個人の時間管理、工夫の必要性を感じており、業務の取捨選択や分担、優先順位を考えた行動をすることで多忙化改善につなげ、精神的なゆとりを持って生徒に向き合う時間を確保できるよう努めていく必要がある。	業務分担や時間管理を工夫し、授業の準備や部活動の指導がある程度余裕をもって進められている。	職員アンケート『業務分担し組織的に、能率的、効率的に業務に取り組めるよう努めている。』 職員アンケート『見通し持ち計画的に業務に取り組む等、時間管理を工夫している。』 職員アンケート『多忙化改善に取り組んだ結果、授業や学級、学年経営の準備、また生徒との向き合う時間ができた。』					a+b の割合(3つの項目の平均)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月		
2 学力向上	学習や諸活動の最初にゴールや見通しを示し、最後に振り返る活動を入れる。	研究部	アンケートの結果は、肯定的な回答が91.5%で、中間総括より2.2%向上した。この視点は、本校における「授業改善の3つのポイント」に掲げている内容であり、全体的に教員が意識して取り組み、浸透していると考え、今後も引き続き取り組んでいく。	授業では単元や、一コマの授業のゴールの姿を示し、見通しを持たせている。また、様々な行事においても、同様に取り組まれている。	生徒アンケート『単元のはじめに、到達目標、学習の見通しが示されている。』 生徒アンケート『授業の最初に課題、到達目標(授業ではB評価)、学習の見通しが示されている。』 生徒アンケート『学校行事のねらいを意識して主体的に取り組んでいる。』					a+b の割合(3つの項目)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月 計画訪問 研修会後		
				最後はまとめ(課題に対し)振り返り(学び方)等、個に返す時間を設定している。	生徒アンケート『授業のまとめや振り返りの場が設定されている。』 生徒アンケート『50字から80字程度の振り返りの文章が書ける。』					a+b の割合(2つの項目)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合			
	授業において「思考を深め、対話的な学びの活動を取り入れる。	研究部	新規項目	授業では単元計画を作成し、知識を活用し、生徒が主体的に活動する時間を位置づけている。	職員アンケート『単元の計画の中に、知識を活用する時間が位置づけられている。』 生徒アンケート『授業では、新たな考え方に会おう等、自らの考えを深め、深めたりする場面が設定されている。』 生徒アンケート『授業ではペアやグループワーク等が設定されている。』 生徒アンケート『授業では活躍できる場面がある。』					a+b の割合(4つの項目)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月 計画訪問 研修会後		
				根拠をもとに、自分の考え方の理由が説明できるように指導している。	職員アンケート『説明の場面(発表や文章)では、根拠を示しながら理由を述べるよう指導した。』 職員アンケート『課題の解決に向け、生徒の言葉を意識しながら授業をコーディネートするよう努めた。』 生徒アンケート『発表や話し合いの場面では、積極的に参加している。』					a+b の割合(3つの項目)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合			
	単元でつづいた力を明確にし、形成的評価(学習)計画を共有するとともに、単元末の評価を計画的に実施する。	研究部	新規項目	アンケートの結果は、肯定的な回答が91.4%で、中間総括より1.6%向上した。教科部を中心に指導と評価の計画を確認しながら実践している結果と考えられる。思考を深め、対話的な学びを充実させていくためにも、今後も定期的に教科部を開発し、単元計画作成やテスト作成(特に活用問題の内容や出題のバランスを意識する)に取り組んでいく。	教科部会で指導と評価の計画について確認し生徒に伝え、活用力の評価について工夫している。	職員アンケート『単元の指導と評価の計画を作成し、教科担当間で確認している。』 職員アンケート『単元テストの計画を生徒に伝え、計画的に実施している。』 職員アンケート『定期テスト等で活用力を評価する工夫を行っている。』					a+b の割合(4つの項目)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月	
				家庭学習や授業のつながりを模索しながら、生徒の学習習慣が確立するよう取り組む。	研究部	アンケートの結果、1時間以上の割合が44.4%であった。1、2年生を中心に定期テストが関係しない月の学習時間が大変少ないことから、家庭学習が課題(週課題やテスト課題)のみになっている生徒が多い。今後も学習時間記録をもとに本人へ指導するとともに、課題だけではなく、予習復習が必要となる授業づくりや、学習習慣の形成に向けた指導を継続して行っていく。	学習習慣の確立に向けた指導が十分なされる。	生徒アンケート『学校の授業以外に月～金曜日に1日どれくらい勉強しますか。』 a: まったくしない b: 30分未満 c: 30分以上1時間未満 d: 1時間以上2時間未満 e: 2時間以上3時間未満 f: 3時間以上 職員アンケート『予習や復習を意識し、授業に生かされる宿題を指示している。』 職員アンケート『補充学習に積極的に努めている。』				1時間以上の割合が A 70%以上の場合 B 60%以上70%未満の場合 C 50%以上60%未満の場合 D 50%未満の場合	7月・12月
	3 心の教育の推進	学習規律等の指導を通して、実社会で必要とされる態度やマナーを身に付けさせる。	生徒指導部	アンケートの結果は、肯定的な回答が93%であった。「授業を高める7か条」に含まれる「教員の準備」「チャイム前着席」「号令・あいさつ」については、全体の意識が良好に定着している。今後も引き続き授業規律の徹底に取り組んでいく。	チャイムと同時に授業の開始終了がなされ、気持ちの良い挨拶とともに規律ある雰囲気での授業が行われている。	生徒アンケート『次の授業の教具をそろえ、 unnecessaryなものは机の上に置かないようにしている。』 生徒アンケート『チャイムが鳴る前に席に着いている。』 生徒アンケート『号令と授業のあいさつはしっかり行っている。』 生徒アンケート『授業では私語を慎んでいる。』					a+b の割合(4つの項目の平均)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月	
					これまでの道徳教育の実践研究の蓄積とその成果を共有化していく。	道徳部	アンケートの結果は「そう思う」が100%であり、各学年共に道徳担当が毎月の教材を提案し、それに基づいて授業を実施している。また、発問や授業展開について情報交換したり、手作りの教材などを共有したりしながら指導力を高める工夫ができた。今後は評価について共通理解を図っていく必要がある。	すべての職員が、道徳教育年間指導計画に沿って道徳の授業を実施している。	職員(学級担任)アンケート『ねらいを明確にし、生徒が考え合う授業づくりを行っている。』 生徒アンケート『道徳の授業は好きである。』				
		生徒の「話し合い活動」を生かした学級づくり・学校づくりに努める。	生徒指導部	新規項目	QUから学級生活満足度は、1年71%、2年61%、3年78%であった。7月(1年70%、2年60%、3年72%)と比べると、全学年ともに上昇している。2・3年生は前年度と比較しても満足度の割合は増加している。また、全国平均37%と比べると大幅に上回っている。<A>学年行事では、全校生徒の肯定的な回答の割合が97.2%であり、大多数の生徒が満足感を得ることができた。学校全体として生徒会主体の行事運営にも取り組むことができた。<A>	行事等において様々な課題が生徒同士の話し合いで解決されている。また、学級では、規律が守られ生徒の主体性が発揮されており、学校への満足度が高い。	生徒アンケート『学校へは安心して来ることができる。』 生徒アンケート『学校は楽しい。』 生徒アンケート『体育祭(文化祭)では、自分たちで決めた目標に対し、話し合いながら解決し、取り組めた。』 生徒アンケート『学級生活へ積極的に取り組んでいる。』 生徒アンケート『生徒会活動へ積極的に取り組んでいる。』 職員アンケート『生徒が主体的に取り組めるよう学級会、生徒会活動等を工夫している。』					a+b の割合(3つの項目の平均)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合 「学級満足度」の割合が A 60%以上の場合 B 45%以上60%未満の場合 C 30%以上45%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月
					保護者と連携しながら、一人ひとりの状況や特性に応じたきめ細かな指導を行う。	通級指導部	「通級による指導」の趣旨に正しく沿った運営を心がけることができた。1年生は小学校からの継続的な不登校があり、全校的不登校生徒の人数は前年度より若干増加したが、外部機関との連携、SCと生徒・保護者との関係構築を含めた組織的な相談体制を整え、個に応じたきめ細やかな対応をしている。	生徒理解に努め、保護者の願いも受け止め、個に応じた支援を行っている。通級教室も適切に運営されている。 *以下の状況も加味し判断する。 ・不登校や不登校傾向、別室登校 生徒の改善状況 いじめ問題への早期発見・早期対応 ・通級教室の運営状況	職員アンケート『生徒の良さや可能性を認め指導している。』 生徒アンケート『先生は良いところを評価し認めてくれる。』 生徒アンケート『友達の良いところを評価し認めてくれる。』 生徒アンケート『自分には良いところがある。』				
4 体づくりの推進と安全指導の徹底		目的意識をもたせ、心身の発達にふさわしい活力ある部活動運営に努める。	生徒指導部	生徒のアンケートでは、肯定的な回答が91%となり、昨年度より2.7%上昇した。多くの生徒が、部活動を通して、自己の成長を感じているが、保護者のアンケートではa+bは、78.3%であり、保護者は生徒ほど部活動への満足度は高くない。	生徒が部活動に目的意識をもって参加し、充実感や自らの成長を感じている。	生徒アンケート『部活動が充実していて、自らの成長が感じられる。』 保護者アンケート『部活動を通して、子どもが成長していると感じられている。』					a+b の割合(3つの項目の平均)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月	
					保護者や地域とも連携し、交通ルール・マナーの徹底を図る。	生徒指導部	2つの質問に対して肯定的な回答では98.7%に達した。「守れた」だけでなく交通ルールで78.8%、ヘルメット83.5%であるが、並列走行や飛び出しに関する地域からの苦情もある。生徒自身が交通ルールを守っているつもりでも、安全に対する意識がまだまだ十分ではない。今後も集会や学級指導で交通安全の呼びかけを徹底し、週2回月2回の交通安全指導だけでなく、登下校時の安全走行についても呼びかけを続けていく。	先生方の指導が徹底され、昨年度よりも交通ルール・マナーの徹底が図られている。	生徒アンケート『あなたはこの1週間、自転車乗車中、交通ルール(一時停止・信号遵守)を守りましたか?』 a: 守れた b: ほぼ守れた c: あまり守れなかった d: 守れなかった 生徒アンケート『あなたはこの1週間、自転車乗車中、ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかりとしましたか?』				
		ゲームやインターネット等の関わりも含め、よりよい生活習慣の定着を図る。	生徒指導部	アンケートの結果は肯定的な回答が70.3%であった。約3割の生徒が規則正しい生活を過ごしているといえるが、状況により、学力向上の1つの生体である望ましい生活習慣に課題が残る。平日のネット使用時間が1時間以上の生徒が45%と多く、ネットの使い方も課題である。	生徒が自分をコントロールする力を身に付け、基本的な生活習慣の定着が図られている。	生徒アンケート『起きる時間・寝る時間・勉強を始める時間を固定し、規則正しい生活ができている。』					a+b の割合が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月	
		安全に関する教職員研修を推進し、危機対応力の向上を図る。	新規項目	学校安全計画に基づき、教職員の研修を行う。	職員アンケート『救急救命の研修は大変に意義のあるものであった。』						a+b の割合が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	8月	
5 家庭・地域との連携	地域社会と連携及び協働しながら、キャリア教育の充実を図る。	総合・特活部	肯定的な回答は72.2%である。わく、ワーク体験等の感想を見れば、生徒は有意義な体験をしていると判断でき、それが生き方や在り方を考える機会にまで深まっている。今後は、それぞれの取り組みに見直しと振り返りをさらに意識するとともに、系統立てたキャリア教育となるよう見直しを進めたい。	地域社会との連携を図りながら特色あるキャリア教育を推進し、生徒の夢や目標を育んでいる。	生徒アンケート『将来の夢や目標を持っている。』 生徒アンケート『授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。』					a+b の割合(2つの項目の平均)が全体の A 85%以上の場合 B 75%以上85%未満の場合 C 65%以上75%未満の場合 D 65%未満の場合	7月・12月		
				各種たよりやHP等を通して保護者への情報提供に努める。	情報委員会	アンケートの結果は、肯定的な回答が77%で、昨年度の77.6%と大きく変化はなかった。「たより」が元々届かないという意見がよく見られた。たより、HPの閲覧数は徐々に増えてきており、たよりの内容を精選し、更にHPの内容を充実させ、HPを通して保護者へ発信、情報提供をしていくようにしていきたい。	学校公開やたより、HP等により、学校や学年級の様子に保護者にほほほわっている。	保護者アンケート『たよりやHPを通して学校や学年級の様子にほほほわっている。』 a: 満足 b: やや満足 c: やや不満 d: 不満					a+b の割合が全体の A 80%以上の場合 B 70%以上80%未満の場合 C 60%以上70%未満の場合 D 60%未満の場合